

男女共同参画シリーズ その2

技術者は一日にして成らず

“Engineer” was not formed in a day

1 はじめに

気が付けば大学を卒業しゼネコンで働き始めて、今年で6年目になります。この6年を振り返ると、様々なことが思い出されます。その時々では悩み苦しんでいたことも、あんなことがあった、こんなことがあったと「今では良い思い出！」といえるから不思議です。

先を見ればまだまだ道半ばではありますが、今感じていることをこれまでの歩みを振り返りながら綴りたいと思います。

2 これまでの私

“構造物を造る最先端で働きたい” そんな思いから地元の大学で土木を学び、ゼネコンへの就職を決めました。大学がJABEE認定校であったため、入社後、技術士補登録をしました。工業団地の造成工事現場に1年半、山岳トンネル工事の現場に2年半従事しました（写真1）。



写真1 トンネル工事現場にて

入社当時、現場で感じていた不安は“自分の判断によって現場が進んでいくこと”です。たとえ新入社員であっても現場監督である以上、現場の状況に応じてどのように工事を進めるか、また想定外のことが起こった時にはどう対処するか、判断し指示を出すことが求められました。

最初は分からない、自信がない、失敗したくない…自分で判断することができず、上司に相談してばかりでした。もちろん、いつまでもそんな風に上司を頼ってばかりいられるはずもなく、次第に自ら考え指示を出すようになっていきましたが、思い通りにいくことは少なく、失敗して落ち込むことが増えていきました。

その度に「なんでこんなにできないんだろう」「自分には向いていないかもしれない」などと思わずにはいられませんでした。が、同時に思ったことは「数年ですべてが分かるような仕事じゃないだろう」「できないことだらけの自分のまま諦めてよいのか」ということでした。

様々な思いが交錯し、何度も沈んでは立ち上がり、を繰り返す中でも諦めずに続けられたのは、完成した構造物を目の当たりにした時の感動が想像以上で、何度経験しても忘れられなかったからでした。また、自分のイメージ通りに現場が進んだ時や、住民の方々の完成を楽しみにしているとの声に、少しずつやりがいや楽しみを感じることができるようになっていったからでもありました。そして何よりも周りの方々のサポートや叱咤激励があったからこそだと、感謝しています。

3 いまの私

昨年より、北海道支店の土木技術部へ配属となりました。設計計算などが主な業務となり、現場で直接指示を出す立場ではなくなりましたが、現場からの技術支援の要望に応えるべく奮闘中です。これまでに現場で経験したことがない工種も多くありますが、現場を見たり現場の方に聞いたり色々調べなどして、品質を確保した上で、施工性、安全性、経済性…現場にとって一番プラスになる方法は何かと検討を行っています。

業務を進める中で、入社当時は不安に感じていた“自分の判断によって現場が進んでいくこ

と”，それがゼネコンの魅力の一つなのではないかと、今では少し思うこともあります。現場の施工方法は一つとは限りません。様々な条件を考慮し、数ある施工方法の中から最適だと思われるものを選ぶ、それは簡単なことではないし、多くの知識や経験も必要となります。若輩の自分はまだまだ知識も経験も不足しており、上司にアドバイスを仰ぐこともあります。しかし、私が諦めたり妥協してしまえばそこで終わってしまう。そんな風にプライドを持って取り組むようにしています。まだまだ迷うことはありますが、一つの業務からでもできるだけ多くの知識や経験を得て、毎日一歩ずつでも成長できるようにしたいと思っています。

また、最近では業務や現場見学会などでの出会いをきっかけに、女性土木技術者や土木を学ぶ女子学生と交流する機会が増えてきました。入社した頃は、北海道でこんなにも多く土木に携わっている女性に出会えるとは思っていませんでした。

見学会や勉強会でのスキルアップ、意見交換会や懇親会など…。普段は打ち明けにくい悩みや問題点など時間を忘れて語り合ってしまうこともあります。毎年参加している札幌市建設局主催の「土木施設めぐり女子ツアー」では30人ほどの女子学生、女性技術者が集まり、現場の見学会や座談会を行っています（写真2）。

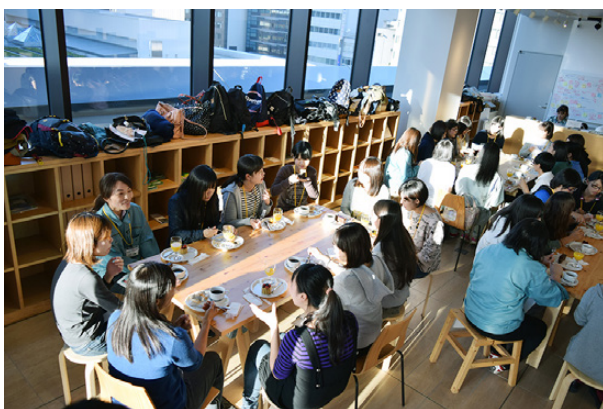


写真2 土木に携わる女性の交流会にて

このような会を通じて、一人で抱え込まずに誰かに打ち明けることは大切だなと改めて実感するとともに、それぞれの意見や対応に学ぶ部分、共感する部分が多くあり刺激になっています。

4 これからの私

私は技術者というのは、突然才能が開花したり、急激に能力が向上したりすることはないと思っています。毎日コツコツと、成功も失敗も自分の糧とし、日々進化していく技術に追いつけ追い越せと奮闘しながら、それでも何年も何年もかかって技術者としての自分が形成されていくのではと感じています。

私も「土木の技術者です！」と胸を張っていえるよう、これからも様々な場面で悩み苦しんだとしても諦めずに何事も挑戦していきたい、そんな風に思います。

その挑戦の一つとして、技術士の取得を目標としています。業務と両立しながらの資格取得は大変だとは思いますが、自分自身の技術力・専門性向上のためにも挑戦していきたいと思っています。

「今では良い思い出！」といえるのは、あの頃の自分よりも今の自分が少しずつかもしれませんが成長している証なのかも？とこれまでを振り返りながら思いました。

男女共同参画推進委員会より

周りの方に励まされ、着実に技術者として成長されている様子が頼もしいです。「技術士仁義水緒」さんの誕生を委員一同応援いたします。

仁義 水緒（じんぎ みお）
技術士補（建設部門）

清水建設（株）
北海道支店 土木技術部
e-mail : m_jingi@shimz.co.jp

